IFES 懸案診断
慶南大極東問題研究所

IFES Issues and Analysis - NO.25 [2015-2] Feb. 6, 2015

自己正当化にすぎない李前大統領の回顧録

金根植 教授
慶南大政治外交学科
kimosung@kyungnam.ac.kr

韓国の李明博（イ・ミョンバク）前大統領の回顧録が波紋を呼んでいる。李氏は退任してから2年も過ぎておらず、回顧録を出版した目的を疑問視する声が出ている。外交上、敏感な内容まで盛り込んだことについて、李氏側は「現政権の政策決定に参考にしてほしい」などと説明している。しかし、政権が交代したわけでもなく、政権を譲った現政権には回顧録という形でなくとも国政経験を共有できる多様な機会と方法がある。回顧録の出版による政治問題や韓中関係、南北関係への悪影響を考えると、国政に参考してもらうためという説明には納得できない。

回顧録の出版は、このところ、南北間で首脳会談の開催に向けた動きが見え始める中、李前政権の北朝鮮政策が正しかったと主張することで、朴政権に口出しすることが狙いであったとみられる。北朝鮮から数回にわたり首脳会談の提案があったが、北朝鮮の「悪い癖」を直すため、会談の開催にこだわらず対応したというのは自己正当化にすぎない。機会はあったが、原則を守るため、首脳会談に応じなかったことを強調し、朴政権も会談の開催にこだわらず、原則を守るよう訓示したのである。李氏は、朴政権の対北朝鮮政策についても暗に批判している。対話のための対話は避け、挑発を繰り返す北朝鮮の戦略に巻き込まれてはならないとして、自身の対北朝鮮政策が正しいと強調しているのである。朴政権の北朝鮮政策「朝鮮半島信頼プロセス」や南北統一構想「ドレスデン宣言」など、交流・協力の提案への不満を間接的に表明している。

前大統領が現大統領の対北朝鮮政策や首脳会談の推進に不満を持つのは自由だ。自身の対北朝鮮政策が正しく、成功裏に南北関係を進めたと自負するのも自由である。しかし、納得できない自己正当化を国民だけでなく、現政権や大統領にまで押し付けるのはおかしい。退任した大統領として、謙虚な姿勢で歴史の評価を待つべきだ。青瓦台を離れて2年も経たないうちに「私は間違っていない」と正当化するのは、自信のなさの現れである。

李前政権で南北関係は悪化の一途をたどった。前政権が行った 人道支援などの対北朝鮮政策を批判し、新しい南北関係を構築するとした李政権の対北朝鮮政策は、結果的に北朝鮮の悪い癖を直せず、北朝鮮の変化をもたらすことにも失敗した。むしろ軍事的な緊張が高まり、海軍哨戒艦沈没事件や延坪島砲撃事件など、安保上の危機をもたらした。李前大統領の「原則」は成果を上げず、北朝鮮を懲らしめることも、変化させることも、屈服させることもできずに、北朝鮮の挑発にあった。言葉だけは断固に対応したが、傷口が「原則」になった。外交政策は言葉ではなく、実際の成果で評価を受けねばならない。

回顧録では、北朝鮮が南北首脳会談開催の条件として見返りを要求したので会談開催に応じなかったと自慢しているが、これも自己主張を押し付けるものにすぎない。北朝鮮が求めたというコメや肥料などの支援は、首脳会談の見返りというよりは会談実現に向けた環境づくりという側面が強い。金大中（キム・デジュン）政権の際は、金剛山観光などの交流が進展し、人道支援が続けられる中で双方の信頼関係が構築され、首脳会談を開催できる環境が整った。盧武鉉（ノ・ムヒョン）政権では、2007年の6カ国協議での合意により北朝鮮の核問題が進展し、人道支援で良好な南北関係が続く中で、首脳会談開催の環境が整った。首脳会談は、南北関係と相互協力を続け、その結果として実現するもので、関係改善や信頼構築をせずには実現できない。南北関係の「入り口」ではなく、「出口」として首脳会談が可能になるのである。首脳会談が可能になるためには、双方が環境づくりに取り組まなければならない。北朝鮮が人道支援などを求めたとしているが、李政権も北朝鮮に対し国軍捕虜や拉致被害者の帰還などを要求したという。

李氏は回顧録で、中国の首脳と行った対話を公開する軽率さを露呈した。北朝鮮が南北首脳会談を実現させるため、中国に協力を要請したとの内容だが、趣旨がどうであれ、首脳同士で話した内容を一方的に公開することは、相手国への尊重と信頼を基盤とする外交関係では決して望ましくない。わずか数年前の首脳間の会話の内容を公開する国は信頼を得られない。今後の中国との関係で障害となる公算が大きい。

李氏は首脳会談を開催しなかったことを誇りに思うとしているが、南北関係の悪化を招いたことから、自画自賛するのではなく反省材料としなければならない。無謀な意地で南北関係を後退させ、

朝鮮半島の緊張を高めた汚点を隠さず、謙虚に受け止めなければならない。波紋を呼んだことで本は売れるかもしれないが、前大統領として尊敬に値するものではない。

ー上記の内容は著者の意見であり、極東問題研究所の公式な立場を示すものではありません。
ーメーリングリストに登録をご希望の方はお名前や電子メールアドレス、所属先を下記のメールアドレスまでお送りください。ifes@kyungnam.ac.kr

You can remove your email address from our mailing list by clicking link below
[No longer receive e-mail]

경남대학교 극동문제연구소
The Institute for Far Eastern Studies

COPYRIGHT(C) 2010 IFES ALL RIGHTS RESERVED
2(Samcheong-dong) Bukchon-ro 15-gil, Jongno-gu, Seoul 110-230, Republic of Korea
TEL. +82-2-3700-0739 FAX. +82-2-3700-0707
EMAIL. ifes@kyungnam.ac.kr